



楽団訪問

湘南リラフィルハーモニー管弦楽団 湘南リラ弦楽アンサンブル



昨年11月21日、標記の楽団を訪問した。当楽団の紹介記事は前号に指揮者で代表の中島良能さんが書かれたが、写真が紙面の関係でのらなかったこともあり、改めて私が写真をそえて具体的に説明したい。

東海道線藤沢駅を降りて江ノ電の乗り場を通り過ぎて階段を下り、100mくらい歩いたところに「藤沢リラホール」という小さな看板が目に入る。エレベーターで5階に上がるといきなり大きな楽音に戸惑う。なんと10人がチェロの斉奏をしているのだ。場所はホールではなくロビー。

この楽団は全体練習の前に約30分間、各々がパート練習をやり、そこには音大卒のプロが現在取り組んでいる曲の難所の弾き方、ボーイング等を指導していた。

中島さんによると技術的なこと（例えばビブラートのつけ方）などよりも音程、歌わせ方、ボーイング等、音楽的な表現方法が中心だという。

30分のパート練習後、皆が集合して全体練習。ホールは200人収容というが60名の団員でステージに上り切らず、Vn1やVc、指揮者は客席まであぶれている。天井が高く板張りの床で音響抜群、照明が明るくないので、まるでモーツァルトの頃の管弦楽のような落ちついた雰囲気ですばらしい。

月2回の練習（木曜日午後）だが、参加料金が割高であることもあり無遅刻無欠勤、出席率95%という。団員は毎回フルメンバーの練習を楽しんでいる。当日の練習曲は私もよく知らないフランクの交響曲二短調という難曲であったが、各パートリーダーがプロで弓さばきが大きく、手本を示しながらひくので、後の生徒たちも上手にひきこなしていた。

最後に第1楽章をとめずに演奏したが、特に弦の40人がすばらしく、Vcの10人もよく響いて、フォルテッシモがすばらしかった。

21年前にヤマハのオーケストラ教室として始まった16名が現在は江ノ電沿線新聞社に変わったが90名に増えている。

中島さんは80歳、一流大学を出られ、ビジネスマンのかたわら桐朋学園で指導法を勉強されたという変わり種。月に2回とは云え、13時40分から17時20分まで2楽団の指揮指導のエネルギーはすごい。指揮の途中での注文は各リーダーに指示しているので団員はあまり緊張せず練習を楽しんでいる。

初心者歓迎で、多分野の音楽かつ出前演奏など専ら楽しさを追求する我々とはかなり異なるが、シニアということ、人生100年時代を合奏を通じて楽しく生き抜くことにおいて共通しており、交流をおすすめしたい。

最後にこの団がこんなに人数がふえたのは専らインターネットによるとのこと。湘南は33%、横浜、東京、埼玉、群馬から遠くても集まるといふ。

シニア、土日以外の午後の練習、プロのパートの指導、会場の音響と雰囲気、指導者の人柄、それに欠席者がいないので、いつも密度の濃い練習ができるなど魅力があるのだろう。

色々勉強になりました。

なお、見学、体験、入団などの連絡は、中島さん（090・8345・6050）までご一報下さいとのことでした。

*写真は管弦楽団の全体風景。弦楽アンサンブル、パート練習の風景は別の機会に紹介します。

（訪問者 全シ連 岡村）